

【コースA】医療分野に強いスクールソーシャルワーカー及びスーパーバイザーの育成 講座概要一覧

プラン			講座 番号	分野 (スキル)	講座名	概要
				デジタル・教育 技法	オリエンテーション	本学ウェブページにてご覧ください。
			1		文献・資料の検索（収集）方法と読み取り方	本講座では、デジタル情報資源を含む情報収集・分析のスキルを学ぶ。 具体的には、各種検索エンジン、データベース等の情報ツールを用いた情報探索の方法を知り、正確で多様な情報を迅速に収集し分析して活用することで、エビデンスに基づいて、学校の教職員や関連機関と連携して課題解決の計画を立て実践できる力量を修得することを目的とする。
			2		エクセルによるデータ分析方法	Microsoft Excelを用いたデータの扱い方および基本的な統計分析手法をご説明します。表計算ソフトは表や帳票を作成するだけのソフトウェアではありません。正しく使えば、手間を大幅に減らし生産性を向上させることが可能なDXの最先鋒です。本講義では集計あるいは見える化だけではなく、データの蓄積や統計分析ソフト活用への橋渡しをも可能となる基本技能を習得して頂きます。
			3		効果的なプレゼンのためのスライドデザインの方法	社会においてコミュニケーションの重要性が高まるなかで、視聴覚機材を用いた表現技能を習得することが広く求められている。ここでは、プロジェクターや大型モニターへ表示されるスライドを、どのようにデザインすることが効果的なプレゼンにつながるのか、美術に関わるデザインの基本や心理学などの知見をもとにしながら、実践的に概説する。
			4		成人教育・研修におけるファシリテーター	教育・福祉・医療に携わるスタッフを対象とした研修を企画する時には、学習者であるスタッフを自律した「成人」としてとらえ、教育方法や内容を検討することが求められる。この講座では、ノールズの提唱する「アンドラゴジー」の考え方について学ぶ。また、研修を円滑に進め、スタッフが目標に到達することを支援するためのファシリテーターとしての役割について理解を深めることを目指す。
			5		e-learning 作成法（１）	本テーマでは、e-learningの初心者にも分かりやすく、e-learningにおける最低限の注意すべき点、理解すべき要点、そして未来の全体像などを示します。具体例を交えながら、操作が苦手な方にはどのような教示が適しているか、LMS（学習管理システム）が何のためにあるのか、教育DXのコアはどこにあるのかなどを丁寧に解説していきます。
			6	e-learning 作成法（２）	本講座では、e-learningにおける評価方法について学ぶ。具体的には、教育評価の基礎となる考え方やe-learningにおける評価方法の実際、実際に評価する上での留意点などについて、教育現場における仮想事例をもとにしたワークを行うことを通して具体的に体得することを目的とする。	
			7	スクール ソーシャル ワークの 理論 (理解)	ソーシャルワークとは	ソーシャルワークとは何か、ソーシャルワーカーは何をする人か、地域社会において複雑化する複合的なニーズに応えることが要請される専門職として、自らを説明するための理論的枠組みについて解説する。
			8		スクールソーシャルワークとは	本講座では、「スクールソーシャルワークとは何か」について網羅的に学ぶ。 具体的には、スクールソーシャルワークの目的を理解したうえで、スクールソーシャルワークが必要とされている背景を変遷とともに確認することで、その意義を理解する。そして、現在のスクールソーシャルワーク実践の概要（実践内容、実態、課題等）を理解することを目的とする。
			9		学校との協働及び他機関連携	近年の子どもを取り巻く課題は複雑化および多様化しており、児童虐待、子どもの貧困、ヤングケアラーなど、その多くが学校職員による教育的支援のみでは解決できないと考えられる中で、他機関との十分な連携体制の構築が求められる。本講義では、スクールソーシャルワーカーが学校と協働しつつ、子どもの権利保障を目指した支援を行う上で、必要とされる知識や視点、気をつけるべきポイントなどについて学習する。
			10		多文化ソーシャルワーク	日本の外国人の受け入れの変遷、在留資格制度、80年代、90年代、2000年代に来日したそれぞれの在留外国人の特徴など、多文化ソーシャルワークの視点から、外国にルーツのある子ども・若者の家庭環境や社会的背景、とりまく環境、現状を紹介し、課題について考える。
			11		チーム学校とは	スクールソーシャルワーカーら多職種からなる学校教職員組織の在り方として近年言われている「チーム学校」について、その概要を紹介・解説するとともに、この「チーム学校」を機能させるためのポイントを、日本の伝統的な教職員組織の特徴、学校文化、校長のリーダーシップの在り方などに触れつつ論じる。
			12	情報収集・ アセスメント (分析力)	アセスメントの理論	「教育相談体制の充実」（文部科学省2017年）に示されたスクールソーシャルワーカーの職務、学校教育法施行規則（2017年一部改正）に示されたスクールソーシャルワーカーの具体的な職務内容に照らし、学校を基盤として実践するソーシャルワークにおけるアセスメントの対象となる領域と理論的根拠について学び、スクールソーシャルワーク実践における包括的アセスメントの必要性について理解を深める。
			13		アセスメント （模擬事例）	アセスメントの実際（模擬事例）
14						

A- II	15	ケース会議の実施方法	学校における子どもたちの複雑な問題・課題を解決するためには、「チーム学校」を活かして、情報収集・共有し、アセスメントし、支援計画を立てるケース会議を実施する必要がある。スクールソーシャルワークの視点と方法を取り入れた模擬ケース会議の様子を紹介しながら、ケース会議の考え方や実施方法、会議の記録と振り返り方法について学ぶ。	
		模擬ケース会議	模擬事例を使い、4～5人のグループに分かれて次の2つを行う。①模擬事例の情報整理・アセスメント、②「ケース会議の実施方法」（オンデマンド）の講座で示されたケース会議の手順に沿って話し合う。プランニングでは、相互作用・交互作用の好循環が生まれる支援、メゾ（学校組織への働きかけ等）まで視野に入れた支援を意識する。	
			16	
	17			
	A- I	18	発達障害の理解と対応	我が国における行政支援（法令）上の発達障害は、発達障害者支援法、同施行令、同施行規則で定義され、行動及び情緒の障害も含まれていること、精神医学での神経発達障害と法令上の発達障害は一致していないことなどが周知されておらず、自閉症と強迫性障害の混同や、知的発達障害が注意欠陥多動性障害や学習障害として誤認されるなどの混乱が生じております。本講座では、様々な発達障害の理解と対応について概説します。
		19	発達障害の相談	本講義では「相談」という場面に焦点を当て、発達障害（やその疑い）のある子どもを持つ保護者の相談窓口として想定される主な機関や専門職の概要を紹介する。また相談場面に際して留意すべき保護者の心理状態や支援停滞要因について、先行研究の知見を基に解説する。保護者への寄り添いと「子どもの最善の利益」優先の両立について考察を深め、受講者の理解の一助となることを目指すものである。
		20	成人のうつ病・子どものうつ病	うつ病は、著しい苦痛を伴う気分の落ち込みであり、何をしても楽しめないといった精神症状とともに、睡眠障害や食欲の低下などの身体症状にも影響を与え、日常生活に大きな支障をもたらします。これらのストレスにさらされ続けることで、ものの見方や考え方がさらに否定的になっていく悪循環に陥ってしまうため、子どものうつ病にも早期に気づくことが大切になります。うつ病の理解と必要なケアについて概説します。
		21	精神保健福祉の課題と支援	子どもや保護者の鬱やリストカット、ひきこもり、LGBTQ+など、精神保健にかかわる問題について、本人や保護者・家族の相談場所や支援制度について概観する。さらに、相談・支援先の利用状況や課題についても学ぶ。そのうえで、学校関係者やスクールソーシャルワーカーなどが、相談や支援につなげる際の支援者側の方法や配慮について考える。
		22	自傷行為に関する医学的知識　～リストカットについて～	自分を自分で傷つける行為を「自傷行為」と言いますが、リストカットといった名称で耳にすることもあります。さて何故そのような行為・行動をするのでしょうか？ 本講座では、リストカットを含む、自傷行為についての心理学的な意味について学習をしていきます。自傷する人の思いや背景を知り、その行動および行動をしてしまう人をどう理解していくかについて学んでいきたいと思います。
		23	子どもの自殺対策	自殺者数の急増を背景とした自殺対策基本法の成り立ちと内容、自殺総合対策大綱から自殺対策の法施策を把握する。自殺対策大綱に基づく諸施策の実施状況から、活用できる社会資源の把握と社会資源開発の可能性を把握する。 子どもの自殺対策として実施されてきた「SOSの出し方に関する教育」の先にある、SOSを受け取った大人がどのような対応が求められるか、子どもの生きづらさに対応する時に求められる支援者の基本姿勢と、公私の社会資源の活用にあたっての留意点などを整理する。
24		発達障害のある子どもの不登校、ひきこもり	不登校の発生機序について説明し、合わせて不登校・ひきこもりに併存する病気、特に子どものうつ病や起立性調節障害を中心に説明していきたいと思います。また、発達障害児の不登校対応と不登校児童を抱えるご家族への配慮ある対応について述べていきたいと思います。	
25		自閉スペクトラム症児者の理解と支援	自閉スペクトラム症児者は人の心を理解するのが苦手なため、支援として心の理解を教えることが重要と言われたりします。しかし、コミュニケーションは、互いにわかり合うことで成立するものです。その視点に立てば自閉スペクトラム症児者に障害のない人の心を教える方向だけではなく、障害のない人が自閉スペクトラム症児者の感じている世界を知る方向も重要です。今回はそういった視点から、理解と支援の在り方を検討します。	
26		在留外国人に対する医療	子ども達を取り巻く環境を考える時、子どもと家族のこころと身体の健康は切り離すことができません。この講座では、在留外国人の日本における医療保障、医療アクセス、医療文化の違いについて学びます。また、日本語ができない等、医療現場におけるコミュニケーションについても、明日から使える様々な社会資源を紹介します。	
27	外国籍児童・生徒と学校通訳	本講座では、小学校、中学校、高校における学校通訳の役割について学ぶ。また、外国籍児童・生徒が学校生活を円滑に送るために、学校通訳がどのようなサポートしているのか、また、子どもの母語の獲得状況や発達段階に応じてどのような学習支援をしているのかを理解する。さらに、学校、保護者、関係機関とどのように連携をはかっているのかについて具体的な事例をもとに考察する。		

A-III	28	現代的課題に関する医療・福祉分野の知識 (実践に生かす視点)	医療現場における児童虐待への対応	学校場面での虐待発見のポイント、医療従事者がどのような観点で見て虐待を発見するのかについて説明し、状況の記録の仕方についても説明したいと思います。また、発見後、もしくは疑わしいご家族、被害児童への基本的な対応についても説明したいと思います。
	29		児童相談所における児童虐待への対応	2000年の児童虐待防止法施行以降、児童相談所における児童虐待への相談対応件数は増加し続けている＊。それに伴い、家庭への介入を中心として、児童相談所が担う役割は重要度を増している。そこで本講義では、児童相談所の児童虐待への対応の基本的な流れを軸に、対応の原則と役割を整理することを通して、児童相談所を中心とした機関間の連携・協働による児童虐待対応のあり方について考える。 ＊2021年度全国児童相談所児童虐待相談対応件数は、20万7,659件（速報値）であり、10年前の約3倍となっている。
	30		貧困による健康格差・つながり格差とその緩和策	本講座では、現代日本の子どもの貧困がもたらす「見えない格差」の構造を、健康格差とつながり格差の視点から明らかにし、それへの対策について学ぶ。 具体的には、家庭環境による栄養格差やそれによる健康格差、更には頼れる人や場所の多寡といった周囲とのつながり格差の現状を明らかにする。こうした格差に対して主に民間を中心に進められている子ども食堂等の支援について学び、今後の支援の在り方について検討する。
	31		貧困の見方と福祉	2000年代後半から日本でも貧困問題に注目が集まるようになったが、言葉だけが独り歩きをして十分な理解がされていないことも多い。この回では、日本社会における貧困とは何か、その意味や経験、関連するデータの扱い方等について解説する。また、貧困に関わる社会政策の全体像について、社会福祉や社会保障、それ以外の関連する政策を含めて概観し、実践を行ううえで必要となる想像力を促す。
	32		家庭訪問の考え方と基礎	家庭訪問は、個人を取り巻く家族という環境に働きかける支援方法の1つである。近年、医療保健福祉・教育分野で重要視されているアウトリーチである。この講義では、保健分野における家庭訪問の目的と意義、対象のアセスメントから実施までの具体的な展開方法、家庭訪問と他の支援方法との連動を通して、受講者の専門領域における家庭訪問の活用や支援システムづくりについて考える機会を得る。
	33		保護者支援	保護者支援が必要になるケースの中には、教職員がアクセスしにくい事例や保護者による苦情がエスカレートして教職員自身が疲弊する困難事例が存在し、スクールソーシャルワーカーによるアセスメントやプランニングが期待されることも多い。本講義では、保護者参画型の会議で、保護者と教職員が対等な関係性の中で行う「保護者ケース会議」の概要と事例を紹介し、効果的な保護者支援の方法について講義を行う。
	34		統合失調症	統合失調症は、幻覚や妄想、意欲や集中力の低下などの症状を伴う病気である。思春期から青年期に発症し、不登校・ひきこもりになることもある。症状の悪化を防ぐために早期の治療が必要だが、症状への理解不足や精神科への抵抗感が受診の遅れにつながることもある。本講座では、早期治療につなげるための知識の習得を目的とし、統合失調症の症状や治療、本人や家族と接する時の注意点や社会資源の活用について概説する。
	35		不安障害	不安は、対象のない恐れであり、健康時でも体験するが、不安のために身体症状や、社会生活上の支障が生じた時には、治療が必要となる。本講座では、パニック障害、社交不安障害、強迫性障害など主な不安障害について、症状や接し方について説明する。また、災害やいじめなど、外傷的あるいは強いストレスを伴う出来事への暴露後に発生する急性ストレス障害や心的外傷後ストレス障害についても言及する。
	36		摂食障害について ～無食欲症・過食症について～	摂食障害について学習します。摂食障害には、拒食と過食の2つがあり、特に若者に多い障害であるとされています。食事を楽しめない、口からものを入れない行動、食事を食べるとは吐く行動の背景には何があるのでしょうか？ 本講座では、若年層に多くみられる非健康的な摂食に関する医学的診断、心理学的な側面から学習し、その行動をしてしまう人をどう理解していくかについて学んでいきたいと思います。
	37		愛着障害とは	愛着障害とは何か？学校や日常生活場面でどのような影響を表し、行動・サインをどう読み取るか、科学的根拠を元に簡単に説明したいと思います。また、愛着障害と発達障害の症状の比較についても述べていきたいと思います。さらに、学校や日常生活場面でできそうなケアについても述べていきます。
	38		医療的ケア児における基礎知識 一すべての子どもと家族が安心して学校生活を過ごすことを目指して一	医療者ではない職種が医療的ケア児と関わる時、見慣れない医療器具や処置を目の前にして、少なからず不安や戸惑いの感情が生じることが予想されるため、まずスクールソーシャルワーカー自身が安心して子ども達と関われることが大切である。よって、本講座では医療的ケア児に関する基礎的な知識の修得と学校生活における具体的な留意点を知ることで実際の学校生活をイメージし、スクールソーシャルワーカーとして必要な視点をもつことを目的とする。

			39		子どものグリーフケア	ここでは、家族など、身近で大切な人との死別を体験した子どもたちのグリーフワークの特徴について説明し、子どもたちに対するグリーフケアについて考える。具体的には、1) 子どもの死の概念、2) 子どもたちによくみられるグリーフとグリーフへの対応のポイント、3) 死別を体験した子どもに対する教師等学校関係者によるサポート、について概説する。
			40	多職種連携実践	多職種連携における課題	看護職とスクールソーシャルワーカー関係者との共同演習・グループワークにより、医療現場と教育現場におけるお互いの職種の特徴や役割、独自性と共通性を理解するとともに、課題への対応方法、運営方法、研修方法、他機関との連携方法等について学びあう。また、多職種連携の現状と課題について確認し、課題解決のために何が必要か考える。
			41			
			42			
			43-1		【SSW経験者用】スクールソーシャルワーク・スーパービジョンの理論と方法	①学校におけるソーシャルワーク実践の基盤となる理論およびスーパービジョンの理論と方法を確認する、②子どもの最善の利益を確保するために、スクールソーシャルワーカーが包括的なアセスメントに基づいて、計画的に支援を展開できるよう機能するスーパービジョンについて、実践的に学ぶ。
			44-1			
			45-1			
			43-2		【SSW未経験者用】 スクールソーシャルワーク実践	公立中学校で実際にスクールソーシャルワーカーから話を聞いたり動きを見たりすることにより、スクールソーシャルワーカーの学校における位置づけや役割、活動内容、生徒や保護者との関係、教職員との協力関係、他機関との連携方法等について学ぶ。実地研修によりスクールソーシャルワークの実践イメージをつかむ。日程は、学校との相談・調整によって決める。
			44-2			
			45-2			
			46	事例研究 (分析力・実践構想力)	発達障害児童生徒の事例（アセスメント）	発達障害児童生徒のケース解決に向けた取り組みを進める際、児童生徒が抱えている困難を理解して適切な支援をするためには、本人の行動や言動だけでなく、学校全体や教室の環境、さらには家庭や地域の状況を正確にアセスメントし、分析を行ったうえで、ニーズに応じた学校内や地域の資源との連携を行う必要がある。本講座では具体的な事例検討を対面で行い、アセスメントや分析の能力を高め、適切な支援を構想できる力を養う。
	A-IV		47			
			48			
			49		外国人児童生徒とその家庭への学校での支援	外国人児童生徒が在籍する学校及び日本語（初期）指導教室等の取り組みや、児童生徒の学校や家庭での様子、スクールソーシャルワーカーの活動に関する報告を聞き、子どもたちとその家庭がおかれている多様な状況や課題を知る。グループワークを通して、各地の状況を交流するとともに、いくつかの事例を想定して各参加者がどの支援していくか考える。
			50			
			51			
			52		教育現場における児童虐待と貧困への対応	児童虐待や貧困は、教育現場で子どもに様々な行動上の問題や不利な状況を引き起こす。本研修では、虐待が子どもに与える影響やリスク・アセスメントを理解し、子どもの最善の利益のために、教職員やスクールソーシャルワーカーがチーム学校として、どう対応するべきか、また子どもや家庭に対して何ができるのか、事例検討を通して考える。
			53			
			54			
	A-V		55		うつ病・うつ傾向にある子どもと不登校 ～リスクマネジメント・クライシスマネジメント～	本演習では、うつ病・うつ傾向にある子どもと不登校の関連を理解することによりアセスメント力を高め、不登校におけるリスクマネジメント、クライシスマネジメントを考えていく。 グループワークでは、架空事例を通して学校組織にアプローチするメゾ実践を中心として、ミクロ実践、マクロ実践を展開するスキルを体得する。
			56			
			57			
			58		学校におけるリストカットと保護者支援 ～子どもの命を守る学校・保護者連携～	本演習では、学校における保護義務の在り方、子ども支援、保護者支援を明確にしていく。 さらに、リストカットや希死念慮などのメンタルヘルス課題を予測した学校支援体制を考える。 グループワークでは、架空事例を通して、初期対応におけるメゾ実践をはじめ、子ども・保護者支援としてのミクロ実践、他機関連携を考えたマクロ実践のスキルを体得する。
			59			
			60			

・すべて現時点での予定として記載しているため、今後変更になる可能性があります。